

令和 6 年



県と市町の情報ホットライン

かがわ

vol.
124

発行●(公財)香川県市町村振興協会 監修●香川県政策部自治振興課
HP●<http://chousonkai.or.jp/shinkou/publication/>

まちづくり最前線/まんのう町

My Town

身近な自然の魅力を最大限発揮する
まんのう町エコツーリズム推進協議会

株式会社 蒼のダイヤ 代表取締役社長 細川 勝さん

Top Message

多度津産オリーブで山間地農業の未来を拓く

地域の元気印/綾川町

People

綾南の親子獅子舞保存会



全国的にも珍しい綾川町に伝わる親子獅子舞(香川県指定無形民俗文化財)を守る獅子組の代表のみなさん。
写真は向かって左から、矢坪獅子組の元会長の小比賀和教さん、副会長の宮脇勉さん、会長の澤田義照さん。中筋獅子組の副代表の三好和幸さん、代表の末長勉さん、営業部長の三好克美さん。



『一般社団法人ことなみ振興公社』

エビアみかどを拠点にイベントを展開している「ことなみ振興公社」。写真は自然の中でヨガを行う森林ヨガ。おいしい空気を吸って、その後は温泉に癒やされて、最高的一天になります。



『OMUSUBI HIKE』

気軽な里山ハイキングから本格的な登山まで、さまざまなニーズに応える「OMUSUBI HIKE」の水沼さん。要望に合わせて、その人のためのコース設定を考えてくれます。

まちづくり最前線

My Town

manno

まんのう町



自然を生かした持続可能なまちづくり

身近な自然の魅力を最大限発揮する

まんのう町エコツーリズム推進協議会

2023（令和5）年6月に全国で23例目、香川県では初めて国の認定を受けた「まんのう町エコツーリズム推進全体構想」。恵まれた自然や歴史といった町の魅力を身近な人にこそ知ってもらいたいという協議会の取組みが、持続可能なまちづくりにつながります。

身近な自然環境を生かした エコツーリズム構想

まんのう町の南東部に位置する琴南地域は、豊かな自然環境や森林環境に恵まれた地域であり、県都である高松市の市街地から車なら1時間程度でアクセスできるという利便性もあります。以前からさまざまな自然体験を目的とした家族単位の観光客が訪れていましたが、そのような人々を対象とする地元の観光協会などの組織や活動はなく、地域の施設がキャンプ場を運営するほか、自然を楽しむツアーを実施している程度でした。そんな琴南に、最近、エコツアーを実施する人が移住してきたり、トレッキングイベントを開催する団体等が活動を始めるようになりました。それをきっかけ

として、まんのう町地域振興課では、町内でも最も過疎化が進行している琴南地域の自然環境を守り、さらに活用して、地域経済の循環を促すとともに、ふるさととの魅力を再発見することで、地域社会の持続可能性を高めるものとして、エコツーリズムに注目しました。

2021（令和3）年に、同課を事務局とするエコツーリズム推進協議会を設置し、地元の受入可能な規模での事業展開を基本とした取組みをまとめ、「豊かな自然環境を活用・保全し、持続可能で若者から高齢者までが生き生きと暮らす地域の実現」を目的とした、エコツーリズム推進全体構想を策定しました。これにより、2023（令和5）年6月に国の認定を受けました。

地元の人も楽しむ、 世界の人も参加する

エコツーリズム推進協議会のメンバーから4名の方に具体的な取組みを伺いました。

一般社団法人ことなみ振興公社

代表理事 宮西修さん

「外部の専門家に講師をお願いし、毎年春秋の2回、歴史探訪や自然観察会、森林ヨガなどのイベントを開催しています。ことなみ振興公社の基本となる



左から、まんのう町地域振興課係長 渡辺良介さん、一般社団法人ことなみ振興公社代表理事 宮西修さん、一般社団法人ランニングドラッカーズ 栗原浩一さん、森さんば代表 横山昌太郎さん、OMUSUBI HIKE 水沼佑太さん。



『森さんぽ』
月に一度くらいのペースでツアーを開催している「森さんぽ」。大川山には落葉広葉樹の美しい森が広がり、非常に歩きやすく、キャンプ場や天文台もあり、森も星も楽しめるステキな場所です。

『一般社団法人ランニングドラムカーズ』
琴南エリアは1,000m級の山が2つあるので、世界レベルのコース設定も行えるトレイルランニングには絶好の場所。イベントでは、マルシェの出店もあり、飲み物や食べ物も楽しめます。



ことなみエコツアー推進協会 <https://sites.google.com/view/kotonamieco>



のは、やはり温泉施設『エピアみかど』です。周辺の自然や文化を楽しんで、その後は温泉につかってのんびりしていたくという一連の流れを考えて取組みを始め、もう10年が過ぎました。『エピアみかど』を窓口として、地元の方にも大いに参加していただきたいと努力を重ねています」

OMUSUBI HIKE 水沼佑太さん

「日本の山、さらに香川県の山に魅了され、休みの日だけでは足りず、どうすれば毎日登れるかと考えた結果、2020（令和2）年から登山ガイドを始めました。メールやSNSなどの申込方法で、季節にあわせて心地の良いところへ登山するイベントを企画しています。例えば、この秋は『エピアトレッキング』として、讃岐山脈トレッキングを行います」

森さんぽ 代表 横山昌太郎さん

「大川山をフィールドとして森林散歩を行い、森の雰囲気を楽しんだり、そこにすんでいる動植物の面白さを伝えたりしています。森にはさまざまな命があり、生き方があり、それぞれに役割があり、より良く生きるヒントや地域社会

がより良くなるためのひらめきも隠されています。国立公園のレンジャーをしていただくもありますが、壮大な自然でなくても、身近な自然が、実に多くの大切なことを教えてくれます。それをツアー化して、地域に住む人々を中心に楽しんでもらいたいと考えています」

一般社団法人ランニングドラムカーズ 栗原浩一さん

「簡単に言えば山の中を走るマラソン『トレイルランニング』を行っています。大川山を登り、竜王山に行き、ぐるっと回って笠形山に下りてくる一周40キロメートルのコースをベースに、世界基準の100マイル（160キロメートル）を目指しています。イギリスから問い合わせがあるなど、世界的にも注目されるトレイルランニング。9月に山道を整備し、今年は11月に初心者でも参加できるイベントを行います」

身の丈に合わせ無理せず生かす

こうした活動を生かして、自然度が高く特徴的な山村文化の残された地域であることを知ってもらい、マイクロツーリズムとして、周辺地域からの集客に焦点を当て、身の丈に合った取組みを

心がけている琴南地区。地域の自然を生かした暮らしの魅力を体験できる機会の提供などにより、幅広い都市住民の参加を促しつつ、地域の住民にとっては、ここでの暮らしの魅力を再発見する機会となるようなエコツアーを目指しています。「参加者と地域とのつながりを創出し、幅広い切り口からの関係人口の増加を図ることにより、地域活性化への波及効果を引き出したい」と考えるまんのう町地域振興課。

最後に他地域へのアドバイスをお願いしたところ、「最近では地域活性化の推進役として、観光産業がクローズアップされています。本地域は、どこにでもある自然豊かな山村といったところですが、エコツーリズムは、これまでの観光基盤がなくても、地域の資源を再発見し、身の丈サイズの規模であれば、特に大きなインフラ整備を行わずに取り組める観光策です。特にルールとガイドランスによって構成されるエコツーリズムは、オーバーツーリズムなどの負の影響についても配慮した取組みとなるので、持続可能な地域運営に沿うものとなり、今後の地域活性化についての枠組みを与えるものにもなりますので、もっと気軽に取り組みたいのではないのでしょうか」と答えてくれました。

香川の先進企業の力を探る あの人に会いたい！

株式会社 蒼のダイヤ

代表取締役社長

細川 勝さん

行政の方は、従来のやり方を
踏襲して、こうしなければ
ならないという思いが強い
と感じます。

従来通りに同じことをする

単なる『労働』ではなく、創意

工夫があり、新たなチャレンジがある

『仕事』で、ぜひ、枠を超えて挑戦する

姿勢を忘れないで取り組んでほしい。

小豆島のオリーブから香川県のオリーブへと、オリーブ栽培拡大の先陣を切った企業の一つ「株式会社 蒼のダイヤ」。企業設立前から世界的なオリーブオイルのコンテストで高い評価を得、「蒼のダイヤ タプナード」も令和5年度かがわ県産品コンクールで知事賞を受賞しました。香川県や多度津町と共に歩んできたという細川勝代表に、これまでの歩みや現在の課題などについて伺いました。





一つひとつ丁寧に手摘みし、新鮮なうちに加工処理することで、品質の高いオリーブオイルが出来上がります。



多度津町見立にある作業所兼直売所。



多度津町で採れたオリーブのみを使用した「多度津産手摘みエキストラバージンオリーブオイル」。



食卓を彩るおしゃれなソース「タブナード」は、パンにつけたり、パスタやサラダに和えて楽しむことができます。

■社是、企業理念を教えてください。

わが社はまだ歴史も浅く、手探りで会社経営を行っている状況です。そのような状況のため、特に明文化したものはないのですが、これまでの私の経験から「みんなで意見を出し、全員が納得して、良い商品を作る」というのが、方針のようなものです。

現在は、役員が3名と、後は臨時という形で繁忙期に手伝っていただいています。通常は2〜3人で主に発送業務や事務を行っています。社員みんなで意見を出し合って、議論を重ね、全員が納得できる形で良い商品を作りたいと考えてきました。

社名である「蒼のダイヤ」も、全員の総意で決定しました。ここ多度津町の白方地区は、元々デラウェアという小粒なブドウの産地でした。「白方ブドウ」として知られ、大阪の青果市場でも人気を博し、高値で飛ぶように売れていたとか。周辺の農家は家を建て替えたと言われるほどで、そのブドウを「赤いダイヤ」と呼んでいました。かつての繁栄をオリーブで再生したいと願い、「蒼いダイヤ」と名付けました。

■事業内容についてお聞かせください。

事業内容は大きく、食用油脂製造業と漬物製造業の二つです。具体的に言えば、オリーブオイル、オリーブの新漬け、タブナードなどの製造販売です。単品のみならずギフト用の製品、また特定の取引先様のオリジナル商品もあり、取引先様と話し合いを重ねながら自慢の商品を創り上げてきました。大量生産ではありませんが、大切に実績を積み上げてきたつもりです。

新商品開発では、クレンジングと洗顔石けんを手掛けましたが、現状は最小単位での生産にとどまっています。



Ao no Diamond Beauty「蒼」クレンジングオイルとソリッドソープ(化粧石鹸)

令和5年度かがわ県産品コンクール 知事賞受賞の「蒼のダイヤ タブナード」について教えてください。

タブナードは、もともとフランスにおけるオリーブのペーストのことです。

取引先様から依頼があり、タブナードの商品開発を手掛けることになりました。外国産の黒いオリーブの実を使った製品は国内でも販売されていますが、国産のオリーブを使った作れば、より日本人の口に合うような美味しいものができると考え、試作品を作り、アンケートをとるなど、より良い新商品をつくるための開発を進めていき、県産品コンクールの知事賞をいただけるような、驚くほどに美味しいタブナードが完成しました。

現在、弊社のタブナードは、県内では高松三越の県産品売場などで販売していますが、大変な人気で売り切れ状態です。県外のイベントでも、飛ぶように売れていきます。賞味期限は1年ほどありますし、問い合わせも次から次にくる状況です。できれば一年を通じて販売したいと考えています。そこで、今年タブナードに関して1.5倍から2倍ほど生産量を増やしたいと計画しているところです。

しかし、収穫量は毎年変わり、思うようにはいきません。どこまで収穫量を確保できるのか、心配なところです。

オリーブづくりや会社設立の経緯等をお聞かせください。

最初にこの地でオリーブの栽培を手掛けたのは、2009（平成21）年です。周辺は山間地で、荒れている状況でした。そこを少しでも良い環境にしたいと、地元の農業委員会のメンバーが集まったのがスタートです。

協議の中で、オリーブは、ブドウやモモ、ミカンなどに比べて、普段の作業量が少なく、手がかからないのではないかという話が出ました。また、



高台からは瀬戸内海も望めるオリーブ畑。
白方地区の斜面に広がっています。

オリーブは、県内の小豆島で多く栽培されていますが、多度津町も山にあがれば瀬戸内海が望めるような場所です。小豆島と気候がよく似ています。そのようなことから、試験的にオリーブを栽培してみることに。多度津オリーブ部会が設立されました。最初は約0.4ヘクタールの土地に386本のオリーブの苗を植えるところから始まりましたが、2年後には約6ヘクタールの土地に3,000本のオリーブを育てるようになり、そして3年後にはオリーブの実がある程度収穫できるようになりました。

オリーブの実がある程度収穫できるようになると、多度津町や香川県の協力のもと、新漬けの漬け方を教えてもらったり、絞ったオリーブオイルを企業に味見してもらったりしました。

商品として売り出すきっかけになったのは、四国電力株式会社さんの関連企業である四変テック株式会社が社さんから声をかけていただいたことです。四変テック株式会社さんは、変圧器や配電盤を扱う企業ですが、新規事業部が設立され、商品開発と販売をしてみたいとの話があり、2013（平成25）年から「蒼のダイヤ」としてブランド化し、共同

でオリーブオイルの販売を始めました。

2014（平成26）年には農事組合法人たどつオリーブ生産組合を立ち上げました。その後、Olive Japan 2015のオリーブオイルコンテストでは、世界中から集まったオリーブオイルの中から選ばれて金賞を受賞。一気に評判が高まります。そして、2015（平成27）年11月に、百十四銀行さんや国のファンドを利用し、共同出資という形で会社を設立しました。そして、2016（平成28）年に、現在の建物も完成し、機械も入れて、ここで搾油がスタートしました。

今後の展開等についてお聞かせください。

新企画は、まだまだ検討段階で、お話しできるものはないのですが、今一番考えているのは、販路の拡大です。およそ5年間で売上げ倍増を目標としています。現在、当社の売上げは、まだ5千万円に届いていません。当初の目標であった1億円の売上げに5年間で到達したいということです。タブナードは売り切れ状態ですが、メインはオリーブオイルです。こちらは在庫がありますので、しつ

かりと売り切っていきたいと考えています。

そのために、やはり販路拡大が必要です。人脈を頼り、企業さんの力も借りながら、模索しています。自分たちが持っているものを少しでも広げながら、関係を増やしています。とにかく良い物を作って、評価していただくしかありません。そのため、県外での販路拡大はもちろん、海外での販売も視野に入れて取り組みたいと考えています。

市町と連携したい具体的な事業があればお聞かせください。

県とか国を含めての話になりますが、当社が現在、一番に困っているのは搾油機の問題です。搾油はオリーブオイルを製造する場合の要と言っても良いほど重要な部分ですが、この搾油機がイタリア製のものしかない現状



毎年オリーブの収穫時期（10月・11月）にだけ作られる「Olive Dolce 多度津産自家製新漬けオリーブ」。

があります。大型の搾油機はスペイン製の物などがありますが、小型の物はイタリア製に限られています。イタリアとは時間差が8時間ほどあり、話したいと思っても、むこうは夜中であつたりと、タイミングが合いません。もちろんイタリア語も理解が難しいですし、通訳の方に入つてもらつてやりとりをするのですが、LINEなどでやり取りできるようにしたと言え、緊急時の対応に困り果てています。

オリーブオイルは新鮮さが命です。摘み取つて、その日のうちに少しでも早くオイルを絞りたいのですが、搾油機のトラブルが発生すると、一日に何十万円分の損失を出すことになります。そこで、搾油機のメンテナンスの体制を国内で整え、強化していただくことはできないでしょうか。この部分に行政のご支援をいただきたいと切望しています。

新規に機械を購入する場合も、1年前に発注しないといけない状況です。もし、機械が致命的な故障したらと考えると、身がすくむ思いです。当社のようなまだまだ小さな企業には、サブの機械を保有する余力

もありませんし、1年後の見通しもなかなかつきません。ぜひ行政の大きな力添えをいただきたいと思っています。

また、販路拡大において、海外への輸出も考えていますが、海外市場の基準やルールを理解することが難しく、どうやってクリアしたら良いのか途方に暮れています。この方面でもぜひともお力をお貸しいただきたいです。

オリーブの木は雨の多い地ではすぐに根が傷み育ちません。晴れの日が多い香川県は、国産オリーブにふさわしい選ばれた土地ですので、県の特産品として、これからも力を注いでほしいと思います。

自治体職員に向けて、アドバイスを をお願いします。

率直に申せば、行政の方に物足りなさを感じることがあります。やはり行政のみなさんは、従来のやり方を踏襲して、こうしなければならぬという思いが強いのではないのでしょうか。従来と同じようにやるのなら、単なる「労働」です。創意工夫があり、新たなチャレンジがあつて

こそ「仕事」と言えるのではないのでしょうか。私も、国鉄で働いていたので、行政の方々の立場や思いは少なからず理解できると思っております。私の場合は、30代前半に民営のJRになりましたので、これまでのやり方ではいけないということを徹底的にたたき込まれました。今までしたことがないこと、思ってもみなかったことをどんどん経験させられました。それが大変勉強になった

と思っています。ですから、枠を超えてチャレンジしてほしいと思います。無理だと思つても、チャレンジの糸口を模索する姿勢だけは忘れないでほしいです。多くの若い行政の方々には、そういう姿勢が垣間見えるので、年齢ではなく、頭が若いという意味で、若いみなさんに期待しています。新しい仕事に正面から取り組むことを考え、大いに成長していただきたいと願っています。



細川 勝 (ほそかわ・まさる)

香川県出身(多度津町在住)
昭和26年4月6日生まれ 73歳

昭和45年 3月 坂出高等学校 卒業
平成27年 11月 株式会社 蒼のダイヤ 設立
代表取締役社長 就任
令和 5年 9月 「蒼のダイヤ タブナード」が
「令和5年度かがわ県産品コンクール」
知事賞を受賞

現在に至る。

PROFILE

本社所在地 香川県仲多度郡多度津町見立1856-3



「就職支援に関する協定」
締結式

自治トピックス Information

Uターン就職等 促進事業について



政策部 地域活力推進課
研修員 中村 優介

香川県の状況について

香川県では、人口減少とそれに伴う地域産業の人材不足が深刻な問題となっています。本県の高校卒業者の状況をみると、2022（令和4）年度の卒業生は県全体で約8,000人おり、進路として一番多いのが大学進学者で、4年制大学に4,100人、つまり51%が進学しており、そのうち83%の3,400人が県外に出ている状況です。浪人生を含めると毎年一学年で4,000人が県外の大学に進学しており、四学年で16,000人が県外に行っていることとなりますが、そのうち3割程度しか本県に戻っていません。このような状況を少しでも改善し、人口減少に歯止めをかけるためには、若者の県内定着とUターン就職に積極的に取り組む必要があります。

そこで県では主に次の施策を通じてUターン就職を促進し、

地域の活力を取り戻すための取り組みを進めています。

香川県出身学生とつながり、Uターン就職の魅力を届ける仕組みの構築

より学生に馴染みのあるSNS（LINE公式アカウントやInstagram）等を活用し、ふるさと香川の魅力をはじめ、県内企業や就職活動に関する情報、地元就職のメリット、本県で活躍するロールモデルなどの情報を発信し、県出身の県外学生たちに地元で働くことの魅力を効果的に伝えます。特に、LINE公式アカウント「UDONターン@かがわ」では高校3年生時点で友だち登録してもらうことで県外に進学した後でもつながりを継続する取組みを行っています。

学生交流イベントの実施

香川県出身学生の進学が多い都市圏では、県内に拠点がある企業と会社説明および座談会を実施する「かがわ企業研究会」を複数回開催することで企業の人事担当者と交流できる機会を作っています。また、今年度の新たな取組みとして、女子学生が参加しやすいセミナーを開催します。企業説明

会のようなかしこまった形式ではなく、お菓子やお茶を楽しみながら企業担当者や交流する形式で実施することで県内企業の魅力を伝えるとともに、Uターン就職の機運を高めることを目的としています。

県外大学との連携

香川県出身学生が多く在学する大学については、「香川県と大学との就職支援に関する協定」を締結し、大学と県が相互に連携・協力して学生のUターン就職を促進する取組みを行っています。大学が主催する学内セミナーや保護者懇談会に就職コーディネーターや県職員を派遣し、個別の相談対応などを行うことで各大学・学生と緊密な関係を構築しています。

LINE公式アカウント、Instagramアカウント「UDONターン@かがわ」

お知らせ等々に大学生がいる場合はぜひご周知のほどお願いいたします。（関係者も登録できます）



かがわ企業研究会



ふるさと納税の指定基準の見直し等について

市町からの

Q & A

事業の背景、経過

2024(令和6)年6月28日
付け総務省告示第二百三十三号により、平成三十一年総務省告示第七十九号(特例控除対象寄附金の対象となる都道府県等の指定に係る基準等を定める件)へ以下、平成三十一年告示という。が改正されました。

本稿では、その改正事項についてご説明いたします。



政策部 自治振興課
主事 片岡 祐幹

概要

今回の改正でどのように変わるのか?

平成三十一年告示における募集適性基準と地場産品基準が次のとおり改正されました。

○募集適性基準の改正

- (1) 寄附者に対しポイント等を付与するポータルサイト等を通じた寄附の募集の禁止
※2025(令和7)年10月、

- (2) 民間事業者等が行う返礼品等を強調した宣伝広告の禁止の明確化

- (3) 食品返礼品の産地名の適正な表示を確保するため、必要な措置を講ずる旨の明確化

○地場産品基準の改正

- (1) 当該地方団体の返礼品等において、区域内での工程が製品の企画立案等であり、製造地は区域外であるものについて、製造者から当該製品の価値の過半が当該区域内で生じていることについて証明がなされた場合は、地場産品基準に該当する

- (2) 当該地方団体の区域内において提供される宿泊について、1人1泊5万円以下の宿泊または甚大な災害の被災地での宿泊以外の宿泊については、同一県内展開の宿泊施設に限る

なお、募集適性基準の(1)の改正については2025(令和7)年10月からの適用となりますが、それ以外の改正については次期指定対象期間(2024(令和6)年10月1日～2025(令和7)年9月30日)からの適用となります。

募集適性基準の改正について



(1)の改正に至る経緯は?



ふるさと納税には、生まれ故郷やお世話になった地域、応援したい地域に税制を通じて貢献することができるといふ趣旨があります。近年、寄附額を増加させるためにポータルサイト等による寄附に伴うポイントの付与の競争が過熱しています。そのため、ポイントを付与するポータルサイト等を通じて募集を禁止することで、地方団体がポータルサイト等に支払う手数料を減らすことができ、本来の制度の趣旨に沿った運用を行うことができると考えられています。

地場産品基準の改正について



(2)の改正について、宿泊券やクーポン券などどのような取扱いとなるのか?



宿泊券やクーポン券などの対象となる宿泊施設が同一県内展開の宿泊施設のみではない場合は、宿泊に係る部分が1人あたり1泊5万円を超えないものに使用を限定する等の対応が必要となります。

まとめ

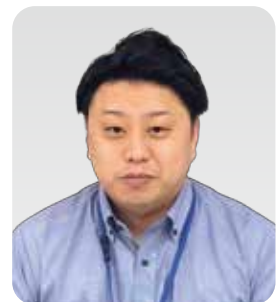
平成三十一年告示において現在の募集適性基準や地場産品基準が設定されて以来、2023(令和5)年6月27日付け総務省告示第二百四十四号では、募集適性基準等の改正がされ、よりふるさと納税の趣旨に沿うように制度が厳格化されています。ふるさと納税は、制度を通じて納税者と地方団体がお互いの成長を高める新しい関係を築いていくことが期待されています。御担当者様は、今一度、ふるさと納税の趣旨に立ち返り、制度の趣旨に則った運用をお願いいたします。

和歌山県
和歌山市

遠浅で数少ない自然の白砂のビーチであり、関西屈指のサーフィンスポット「磯の浦海水浴場」

住民や出身者・行政・地元企業や学校・団体などが つながる関係人口創出事業 「地元が好き」という共通項でいつでもつながる ファンメディア FAVTOWN

進学や就職を機に和歌山市を離れてしまう若者を応援したいという思いからシナジーマーケティング株式会社とともに始めた「FAVTOWN wakayama」の取組み。和歌山市の産品を送る「ふるさと便」、和歌山市内の情報発信、イベントの企画を通して、和歌山市を離れる若年層をメインターゲットに、離れてからも和歌山市とつながる取組みを推進しています。



移住定住戦略課

岡本 祐太朗さん

1 和歌山市の概要

和歌山市は、紀伊半島の北西部に位置し、市のほぼ中央部を紀の川が東西に流れ、北部は緑豊かな和泉山脈が連なり、西部には風光明媚な紀淡海峡や和歌浦湾に面し、豊かな自然に恵まれています。大阪府と県境を接し、近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道、第二阪和国道などの道路ネットワークのほか、JR阪和線・紀勢本線や南海電鉄本線が通っており、関西国際空港から最も近い県庁所在地で交通の利便性も高い地域です。気候面では、温暖で雨量が少ない瀬戸内海式気候帯に属しており、四季を通じて温暖な気候に恵まれています。



紀州徳川家の歴史を持つ和歌山市のシンボル「和歌山城」



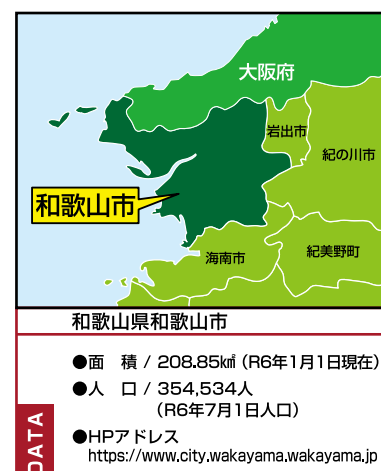
景観がイタリアのアマルフィ海岸に似た独特の美しい景観を持つ港町「雑賀崎」

2 関係人口創出の取組み

「FAVTOWN」

(1) 背景

和歌山市では、少子高齢化に伴う人口減少の影響を受け、1985（昭和60）年頃をピークにその後人口は減少しており、大学進学を機に若年層の市外への転出が課題の一つとなっていました。和歌山市を離れることが問題なのではなく、転出をきっかけに和歌山市とのつながりが途切れてしまうことに問題があるという観点





「和歌山市関係人口
創出モデル実証事業」
に関する連携協定式



『FAVTOWNロゴマーク』
学生・社会人・企業・行政の4つをシンボル
化して一本の線で共通項を表現し、ハートで
覆うことで「地元が好き」というコアの心情を
表現。ハートマークはマップのピンのような
シルエットにして所属意識を醸成する狙いがあり
ます。

からシナジーマーケティング株式会社の
事業提案を受け、FAVTOWN
事業がスタートしました。

「つながり続けることができれば、
和歌山市を思い出し、将来Uターン
移住やふるさと納税などで和歌山市
と一緒に支えてくれるひとりになって
くれるはず。だからこそ、いままで
以上に和歌山市を離れてがんばる
みなさんを応援したい。」という想い
が、FAVTOWN(Favorite Town =
お気に入りのまち)という名称に
込められています。

(2) 実施内容

FAVTOWNの会員になると和歌山

市の特産品
や日用品を
詰め合わせた
新生活応援
ギフトである
「ふるさと
便」を市外の



和歌山市の特産品や日用品を詰め
合わせた新生活応援ギフト「ふるさと便」

大学短大・専門学校へ入学した時、
20歳を迎えた時、就職した時の最大
3回受け取ることが出来ます。

企業にとつては認知やイメージ向上
の機会となり、受け取る側からは
「和歌山市から応援してもらっている
気持ちになった。」「和歌山市を思い
出し、暖かい気持ちになった。」など
のお声をいただいています。

また、同窓会や成人式の案内、
クーポンの配布、
おすすめスポッ
ト、飲食店、母
校の活躍、就職
などの情報を
発信するととも
に本市のイベ
ントと連動した
企画を行って
います。



FAVTOWN会員限定イベント一覧

2023(令和5)年度は和歌山市
の港まつりで協賛席プレゼント企画、

成人式でフォトブースを設置し、参加
者に写真撮影をしてもらうフォト
企画を実施することにより和歌山市
への帰省やFAVTOWNを発信する
機会を創出しました。

また、東京都で和歌山市フェスを
開催するなど県外に出た和歌山市
出身者に和歌山市を思い出してもら
える企画を実施しました。



和歌山市へのシビックプライド
を醸成するイベント『和歌山市
フェス』

(3) 導入から現在

事業開始からシナジーマーケティング
株式会社は強みであるCRMの知見
を生かした会員へのアプローチ、データ
分析に加えてサービス、アプリ、SNS
運用など内容・デザインともに行政で
は難しい部分を担い、本市は地域資源
の提供を通し、パートナー企業の拡大
や会員獲得に向け、それぞれの長所
を生かして取り組んでまいりました。

また、地元企業がこの事業に関わる
ことで企業側の意見をもらう、共同
で企画を行うなど更なるサービスの

充実とともに地域全体で事業を支え
ていく体制ができてきたことを実感
しております。

ただ、企業に事業主旨を伝えること
に苦慮している部分があり、地域で
支えていく取組みとして認知度を
高め、より企業が参加しやすい環境
づくりが必要だと考えております。

3 おわりに

今後は、新たに地元就職を促す
ため就職サービスコンテンツの構築、
帰省を促すイベントの企画など
FAVTOWNのコンテンツを増やして
いくとともに応援パートナー企業を
増やし、地域で支え、持続可能な
体制の構築を目指します。

また、この取組みを同じような課題
を持つ他地域に広げ、FAVTOWNの
知名度の向上や他地域との連携が
できるような事業にしていきたいと
考えております。

そして、将来的に「地元地域や関わり
を持った地域のFAVTOWNに登録
することが当たり前になる」事業へ
と成長し、FAVTOWNを通じたU
ターン事例を創出していききたいとい
う思いを持ちながらこの事業を進めて
まいります。

香川の まち歩き

小豆島町は、2021年版・2022年版「世界の持続可能な観光地TOP100選」に選ばれた町。その中でも日本三大渓谷美の一つに数えられる寒霞溪は、指定90周年を迎えた瀬戸内海国立公園を代表する景勝地です。今回は自然に優しいロープウェイを利用し、山頂駅周辺を巡ります。



ロープウェイで楽しむ 国立公園指定90年目の絶景 小豆島町



星ヶ城から四方指までの東西約7kmの渓谷を「寒霞溪」と呼び、かつての火山の火口にあたります。



伐採したヒノキを使って自然を感じる設計にこだわったこうん駅。料金表などに障害がある人にも見やすいフォントを採用するなど、工夫が満載です。



山頂も見どころ満載ですが、散策の前に寒霞溪ロープ



左から、寒霞溪を案内してくれた、寒霞溪ロープウェイ営業係長の工藤真樹さん、小豆島観光ボランティアガイドクラブの松尾志郎さん、小豆島町商工観光課主任主事の片岡琴未さん。

ウェイの工藤真樹係長にお話を伺いました。鉤懸山、神懸山とも記されてきたこの地は、応神天皇の時代から信仰の場とされ、地元の人に愛されてきました。明治時代になると欧米からも注目され、大正、昭和とリゾート化が一気に進みますが、地元有志の方々が尽力し、貴重な景観が守られました。



ロープウェイの利用はCO₂の削減になり、寒霞溪の自然を守ることにもつながります。乗車約5分の間には、ちょこんとひよこがのっているようにも見える「錦屏風」をはじめ、渓谷の絶景を楽しむことができます。



鷹取展望台では、今年で指定90周年を迎える瀬戸内海国立公園の中心地とも言える絶景を望むことができます。



「空の玉／寒霞溪」は青木野枝さんの作品。あえて素材に錆止めを使わず、錆と共に風景に溶け込ませるようにしてあります。

最後に訪れた「四望頂」からは、荷葉岳という表十二景の一つが見え、人の顔にも見える仏像岩と烏帽子岩もよく見えます。この先から表登山道を下ることもできます。

各展望所への道すがらも珍しい植物や岩石、紅葉の

また、持続可能な観光を目指し、神懸山保勝会などが保全活動に取り組んでいます。寒霞溪ロープウェイでも、こううん駅はLED照明の数を減らし、自然光をなるべく取り入れた設計としました。スタッフも、ペットボトルの回収や再利用、尾根沿いのごみ拾いを日々行っています。国立公園の中なので、エレベーターなどの設置は難しい現状がありますが、山頂ではスタッフが人力で車椅子の人などをサポートしています。

松尾さんのガイドで最初に向かったのは、山頂駅のすぐ近くにある第一展望所。目の前に奇岩が迫り、溪谷美の向こうに瀬戸内海の絶景が広がります。レストランや売店の前を通り、ハートまつ（松）ベンチなどがある三笠園地を通って、第二展望所へ。ここでは、誰もが夢中になる「かわらけ投げ」ができます。続いて到着したのはガイドさん一推しの「鷹取展望台」。標高625メートルから見下ろす風景は松尾さんいわく「小さな島の大きな風景」。その壮大さ、爽快さに思わず歓声が上がります。続いては、瀬戸内国際芸術祭2022の作品「空の玉／寒霞溪」。作品そのものが展望台になっています。



約1,300万年前の火山活動によって生まれ、長い年月の地殻変動や風化と侵食によって創り出された世界で唯一の寒霞溪の絶景。その溪谷美と瀬戸内海を一望する第一展望台は、絶好の撮影スポットです。

瀬戸内海に浮かぶ多くの島の中で一番の標高を誇る小豆島。その天に近い絶景をロープウェイとガイドさんのおかげで、楽々堪能したまち歩きでした。

解説を交えてガイドを行う松尾さん。その博学さに頭が下がる思いです。寒霞溪の案内看板で、裏八景の松茸岩や石門などの話をお聞きし、帰りのロープウェイの中でも、迫り来る玉筍峰、駅を出てからも階段から見える通天窓を教えてもらいました。



山頂散策コースの到着点、四望頂から眺める仏像岩(左)と烏帽子岩(右)。



天に通じる窓のように見えるという通天窓。表神懸十二景の一番目に数えられます。

もみじ葉エキス100%配合のサイダー「寒霞溪もみじサイダー」。美しい紅色で爽やかな飲み心地。



2019(令和元)年に「石の島」として日本遺産の認定を受けた小豆島。町の協力も得て寒霞溪の貴重な火山岩から「星山の砂」や「ストーンリウム」のみやげ物が生まれました。

香川の自治に新しい力 New Face

はじめまして

丸亀市
税務課

たかお まさと
高尾 諒人さん



■あなたのチャームポイントは？
元気でよく笑うところです。
窓口対応や、周りの人と接する
際に生かしたいです。

■丸亀市のいいところは？
交通の利便性がよく、公共施設
が多いところです。また塩飽諸島
や飯野山などの自然が豊かな
ところも魅力です。

観音寺市
ふるさと活力創生課 十川 唯さん



■目指す人物像は？

予想しないことが起こっても、
冷静かつ柔軟に対応できる職員
になりたいです。

■観音寺市をこうしたい！

新しい取組みなどを取り入れる
ことで元気で活力あふれ、市外の
人にも興味関心を持つてもらえる
市にしたいです。

土庄町
健康福祉課

かんたに しんすけ
柑谷 心祐さん



■今、熱中していることは？
ゴルフです。小豆島にもゴルフ
場があるので、近々回つてみたいと
思っています。

■土庄町をこうしたい！
子ども達がこの先もずっと住み
続けたいと思い、土庄町以外の
人も私のように移住したいと
思えるような町にしたいです。

大川広域行政組合 まつした こうや
大川広域消防本部 松下 昂也さん



■目指す人物像は？

NBA選手のコピーブライアント
選手のように、失敗を恐れずにいろん
なことに挑戦できる人になりたいです。

■組合の仕事内容は？

消防隊員として、火災や救急
などのさまざまな現場でどんな
ことにも対応できるように、日々
訓練に励んでいます。

宇多津町
住民生活課

かとう まさひろ
加藤 将紘さん



■あなたのチャームポイントは？
筋力には自信があります。筋力
が低下しないように、これからも
鍛えていきます。

■宇多津町のいいところは？
香川県内で一番小さな町だから
こそ、交通や買い物などが便利で
暮らしやすい町です。四国水族館
も圧巻の魅力があります。

直島町 いしだ ほのか
教育委員会事務局 石田 穂乃香さん



■今、熱中していることは？

プロ野球観戦です。4月に開幕
したので、好きなチームを現地で
応援に行きたいです。

■直島町をこうしたい！

住民や移住してくる方々が
暮らしやすくなるような、活力
あるまちづくりをしていきたい
です。

高松市
広報・広報・シミュレーション課

とくだ りさ
徳田 梨紗さん



■目指す人物像は？
高松市のシティブロモーションの
ために、多角的な視点を持った
職員になりたいです。

■高松市をこうしたい！
高松市の魅力ある資源について
情報発信していくことで、市民
の方が誇りを持てるような市に
したいです。

三豊総合病院企業団 つばい みり
地域連携課 壺井 美莉さん



■あなたのチャームポイントは？

雰囲気です。話しかけやすいと
言われるので、患者さんからも安心
してお話しただけだと思います。

■企業団のPRをお願いします！

地域の中核病院として急性期
医療などの提供を行っており、
地域における包括ケアシステム
の構築に努めています。



中筋公民館での練習風景。小さい頃から頭を持って稽古が始まります。



畑田八幡神社のみならず各地のイベントなどにも呼ばれる親子獅子舞。今秋は山口県で開催される民俗芸能大会にも出演予定です。



中筋獅子組



綾川町

親子の情愛を伝える
「親子獅子舞」を守り続ける

綾南の親子獅子舞保存会

（矢坪獅子組会長 澤田 義照さん
中筋獅子組代表 末長 勉さん）

今年も秋祭りの季節がやってきました。

綾川町の昭和校区では、夜鳴らしという獅子舞の稽古の音色が集落に響き始め、10月上旬①の春日神社の祭礼や10月中旬②の畑田八幡神社の祭礼で、全国的にも珍しい「親子獅子舞」を見ることが出来ます。夫婦の獅子が登場する獅子舞はあちこちに伝わりますが、親子の情愛を表現する獅子舞は、香川県内では綾川町に伝わるものだけで、香川県指定無形民俗文化財となっています。

この「親子獅子舞」の起源は諸説ありますが、矢坪獅子組では、明治の初めから大正の初め頃に栄えた豪商が、自分の息子たちのために獅子頭や太鼓などを買い与え、それを獅子組に寄付しました。獅子組では子ども用のものができたことから、やがて親子獅子の形になったと伝わります。

一方、中筋地区では獅子組そのものがなく、他の獅子組で稽古を重ねていた人だったので、戦後に隣の自治会と共同で獅子組を結成することになりました。当初は一

頭を使っていたが、大会などに出かける

と、夫婦獅子のように二頭使いのものに注目が集まるので、より見栄えが良く、子どもたちが参加しやすい獅子を作ることにしたそうです。そうすると、香川県で開催された全日本中学校長会を皮切りに、さまざまなイベントなどに呼ばれるようになり、広く名前が知られるようになりました。

綾川町の獅子舞は、鉦かねの形も音も大きいことで知られていますが、これは神社の境内で各獅子組が一堂に会し奉納するので、隣の鉦より大きく響く音にしたいと、鉦のサイズがどんどん大きくなった結果だそうです。

親子獅子舞は、親獅子が乳を与える様子、共に戯れる様子、寄り添って眠る様子、成長を願う親獅子が子獅子を千尋せんじんの谷に落とす様子などが演じられます。その内容は観客のみなさんに、より感動を伝えたいと、時と共に進化してきました。

現在はいずれも自治会が母体となり、伝承を続けていますが、容赦なく押し寄せる少子化の波に頭を痛めています。中筋獅子



左から、中筋獅子組代表の末長勉さんと矢坪獅子組会長の澤田義照さん。



矢坪獅子組



家遣いの様子。自治会をはじめ、多い時には30軒以上の家々を回ります。



春日神社で奉納される親子獅子舞の様子。油単や衣装も華やかです。

※①2024（令和6）年は10月6日（宵祭り）は前日の5日）
※②2024（令和6）年は10月20日（宵祭り）は前日の19日）

ハロウィンジャンボ

5億円

1等・前後賞合わせて
1等3億円、前後賞各1億円

当さんの
チャンス広がる!

ハロウィン ジャンボミニ

5千万円

1等・前後賞合わせて
1等3,000万円、前後賞各1,000万円

パソコンや
スマホで
ネット購入!



宝くじ公式サイト

<https://www.takarakuji-official.jp/>

9月17日(火)同時発売

発売期間／9月17日(火)～10月17日(木) 抽せん日／10月25日(金)

2024年新市町村振興宝くじ 公益財団法人 香川県市町村振興協会 各1枚300円

この宝くじの収益金は市町村の
明るいまちづくりや環境対策、高齢化
対策など地域住民の福祉向上の
ために使われます。

公益財団法人 香川県市町村振興協会